

研修報告書 No.23

所属：昭和大学卒後臨床研修センター 研修医

研修先：大井田病院、渭南病院、沖の島へき地診療所

平成30年2月の1ヵ月間、地域医療研修として大井田病院、渭南病院で研修をさせていただきました。病院自体があまり大きくなく、働いている人がみんな知り合いという状況はとても温かみがあって居心地がとても良かったです。院長先生は毎日のように夕食に連れて行ってくださり、放射線技師さんや看護師さん、作業療法士さんとも知り合いになれました。またお店のなかでも従業員の方や、飲みに来ているお客さんとも話し、地域に触れることができました。まさに夜の地域実習でした。

研修は主に外来や内視鏡見学、往診や訪問介護、乳児健診、施設訪問に同行させていただきました。私は今まで大学病院で研修をしており、病院の外にできるような仕事はあまり経験もしたことがなくどれも新鮮な経験でした。

その中でも印象に残っているのが、末期癌で往診している患者様の血圧が低下してきた時に、お顔だけ拝見しに行こうと言い、往診日ではない時にもお宅を訪問し実際に声をかけに行ったことです。意識があまりない患者様に声をかけることはもちろん、その患者様を看病しているご家族の皆さんにも声をかけ、患者様だけでなくその家族全体をみるのが大切なんだと理解できました。実際のプライマリケアというものに対してあまり知識もなく学ぶ機会もなかった私でしたが、こういうことなのだなと実感できました。

その他にもさまざまなマイナーエマージェンシーも見ることができました。マグロをとるための大きな釣り針が顔に刺さった患者様がきた時には唖然としました。もう出会うことはないのかもしれませんが、貴重な経験でした。

またいつかは来ると言われている南海トラフ地震に対しての準備もしっかりとされており、東海大地震が来ると言われている静岡県が地元の私にも他人事とは思えず、いろいろと考えさせられることも多かったです。

また手術が必要となった際に転院搬送する際にも片道1時間もする道を通らなければいけなかったりします。患者さんの負担はもちろん、そのご家族も負担はとても重く、できるだけその地域だけでできることはやらなければならないということもわかりました。

地域医療研修を経験し、地方は医師が本当に足りていないことや、いろいろな症状を訴える方が来院し、なんでも診られなくてはいけないことを身をもって感じました。この経験を生かし、将来的に地元に戻った時にプライマリケアができるような医師になれるよう、幅広い分野を学んでいこうと思います。